

■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

どの子ども読書の楽しさを味わい、意欲的に読書活動に取り組むための活用をめざして

島根県安来市立井尻小学校
教諭 和田 奈緒子

はじめに

本校では、以下のような学校図書館教育全体計画のもと、子どもたちの読書活動を推進しています。

<学校図書館教育のねらい>

感じる力、考える力の育成

- ・本に親しみ、よりよい読書習慣を身につけた心豊かな子どもを育てる。
- ・表現力の基礎となる言語感覚を磨く。
- ・資料を有効に活用し、自分の考えを持ち、課題解決を図る力を育てる。

<学校図書館運営の方針>

- ・教育課程に位置付けた学校図書館の利用を計画的に実施する。
- ・読書センターとして、読書の喜びや楽しさが味わえる魅力ある図書館をめざし、読書指導、環境整備に努める。
- ・学習・情報センターとして、図書館を活用した授業の推進を図る。

この全体計画に基づき、「わいわい文庫」の活用においても、

- ①どの子ども本に親しみ、よりよい読書習慣を身につけること。
 - ②読書の喜びや楽しさが味わえる読書指導、環境整備を行うこと。
- を意識しながら、一人ひとりが自分に合ったスタイルで、読書活動に意欲的に取り組めることをめざしました。

活用の実際

<必読図書“わいわいコース”を設定>

本校では、全校児童が図書館の貸出冊数の目標を設定しています。また、学年ごとに「必読図書」を設定しており、児童は、自分の目標に向けて必読図書も含めて、図書館で本を借りて読書をします。

4年生のAさんは、読書に意欲的に取り組みますが、読むことに時間がかかります。

めあてをもって本をよもう
 今年、がんばりたいこと

●おもしろい本をいっぱい見つける
 ○借りた本は最後まで読みきる
 ○図書館で学習にも役立つ
 ○毎日20分は本を読む
 ○いろいろな分類の本を読む
 ○長い読み物など厚い本も読む
 ○必ず図書館やおすめの本をたくさん読む
 ○その他

2 読書記録をつけましょう
 ・最後までよんだらし(読書カードに○△×)
 ○ = 最後まで読んだ(完読)
 △ = ところまで読んだ
 × = 読めなかった
 ・おすめの本リストにスタンプをのせてもらう

最後に読んで読みきった本のめあて(完読)

3-4年生	1学期	2学期	3学期	1学期で
3-4年生	30冊	44冊	30冊	110冊
3-4年生	40冊	50冊	44冊	130冊
3-4年生	49冊	30冊	17冊	96冊
3-4年生	49冊	30冊	17冊	96冊

・1年間で借りたさつすう [96 冊]

Aさんのワークシート

3年生の2学期以降、目標冊数に達しないことを気かけ、「長いお話の本を読むのは大変」「なかなか本が返せない」と悩んでいました。それでも、必読図書の完読をめざして読書を行いました。

4年生 必読図書「比叡山コース」

No.	本の名称	作者	読み終	返却済	返却済	返却済	返却済
1	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
2	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
3	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
4	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
5	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
6	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
7	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
8	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
9	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
10	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
11	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
12	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
13	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
14	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
15	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
16	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
17	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
18	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
19	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済
20	おぼろ	宮田正	読了	返却済	返却済	返却済	返却済

※貸し出しと返却済を併記します。
 ※1冊読み終った本は返却済とします。

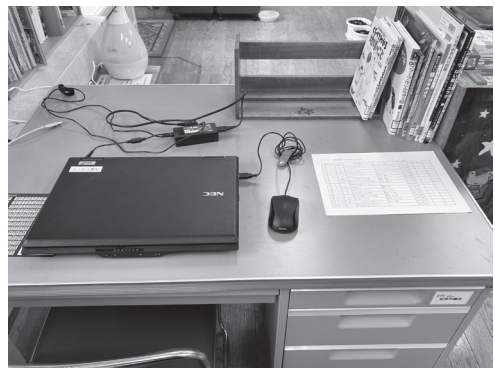
4年生の必読図書リスト



必読図書を完読した「にんてい証」

Aさんの読書の負担を減らしながら、満足感も味わうことができないかと、「わいわい文庫」を活用した必読図書“わいわいコース”を設定しました。

いつでも読書に取り組めるよう教室にも“わいわいコース”用のパソコンと図書を一緒に設置しました。



“わいわいコース”用のパソコンと図書

Aさんは、「わいわい文庫」を使ったり、図書館で借りた本を読んだり、自分で読みたい方法で読みたい本を選択して、読書に親しんでいます。

両方を経験する中で、Aさんは、「わいわい文庫」でいったん聞いてから、本を実際に手に取って読んだり、「この本は、長すぎる。いつまで続くのかな」「この本は、見たいところだけでいいから、『わいわい文庫』は使わずに自分で読む」と自分で選択したりしながら読書に親しんでいます。

<昔話を「わいわい文庫」で>

2年生の国語の学習では、教科書で紹介されている本を読んで、面白かつ

た本を紹介しあう活動が設定されています。

読書の時間を確保することも、お話の内容をそれぞれが読み取れているかを確認することも大変です。

Bさんは、『せかいいちおいしいスープ』（マーシャ・ブラウン文・絵 岩波書店）を読み、「ただのまるくて、すべすべした石でスープができてびっくりしました」と感想を書きました。内容を把握できていないと感じたので、2回目は、「わいわい文庫」を視聴しました。

2回目の感想は、「3にんのはらぺこのへいたいが、村人たちをうまくだまして、ちょうごうかスープとねるばしょを手に入れました。ぼくもせかいいち、おいしいスープを作って食べたいです」と書きました。自分で読むことと、「わいわい文庫」では、何が違ったのかを尋ねると、

「自分で読んでいくのは、とちゅうでつかれる」

「『わいわい文庫』は、聞いて読めるから、話がよくわかる」

と話しました。音声での読み上げがあることで、負担が減り、内容の理解の補助になっていました。

2学期の終わりには、3学期の学習に向けて、「わいわい文庫」で昔話を聞く活動を行いました。

「わいわい文庫」のブルー版には、

日本各地の昔話が、お話によってはその土地の方言で語られて収録されています。それぞれのペースで、「わいわい文庫」を視聴し、一言感想を書きます。これもリストを作成しました。

昔話を聴く		収録の題名	国・地域	おすめ度	ひとことかきょう
2002	19県.01	ゆめくぼでんまつ	/	/	☆☆☆☆☆
2003	20県.01	とんぼとてんこ	/	/	☆☆☆☆☆
2004	30県.01	てんこのおみず	/	/	☆☆☆☆☆
2005	40県.01	とんぼのこころにまさん	/	/	☆☆☆☆☆
2006	50県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（標準語）	/	/	☆☆☆☆☆
2007	60県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2008	70県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2009	80県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2010	90県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2011	100県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2012	110県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2013	120県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2014	130県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2015	140県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2016	150県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2017	160県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2018	170県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2019	180県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2020	190県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆
2021	200県.01	おとぎ話にのってあそびたおとぎ話（方言）	/	/	☆☆☆☆☆

「わいわい文庫」に収録されている昔話のリスト



「わいわい文庫」で昔話を聞く活動

Bさんは、「昔話は聞くほうが、登場人物の気持ちがよくわかる気がする

る」と話していました。昔話の独特な言い回しを聞くことで、感情理解につながったようです。

また、読書活動になるとしぶしぶ取り組むCさんも、「つぎはこれが聞きたい」ととても意欲的に活動に取り組みました。ふだんの2～3倍の読書量を確保することができました。Cさんに様子を尋ねると「自分で本を読んでいると、行が変わるときに飛ばしたり、同じところを読んだりして、また読み直しをしないといけなくなったり、どこを読んでいたのかわからなくなったりする。でも、聞くのは、そんなことがないからよくわかって楽しい」と話しました。また、自分の読みでの困り感をうまく表現してくれたことで、今後の支援にもつなげることができると感じています。

<図書の紹介で「わいわい文庫」の表示>

学校図書館は、いつ行ってもいろいろな図書が紹介されています。ストーリーテリングで読んでもらった図書や卒業生（中学1年生）からの絵本の紹介などもあります。子どもたちは、紹介してもらった本を読み、お返しに感想を書きます。毎年恒例のこの読書交流は、子どもたちも楽しみにしており、多くの子どもたちが本を手に取り、読みます。



ストーリーテリングで読んでもらった図書



卒業生が紹介する図書

毎週1回の読み語りのブックトークで紹介された図書の紹介では、紹介された図書の中に「わいわい文庫」に収録されている図書があったので、表示しています。実際に、「わいわい文庫」で読みたいと希望する子どもはいませんでしたが、このような表示をすることは、今後も継続していきたいと思えます。



読み語りのブックトークで紹介された図書

取り組みを振り返って

昨年度までは、入門期の1年生を中心に「わいわい文庫」での読書の取り組みを始め、活用が必要な子どもたちに活用を継続する取り組みを行っていました。昨年度末には、同じ市内で「わいわい文庫」の活用に取り組んでいる荒島小学校から、国会図書館からの貸し出し方法を紹介していただきました。読みの困難さを抱えた子どもへの読書活動には、とても有効な活用方法で、本校でも手続きを行いました。

読みの困難さを抱える子どもへの個

別の支援が手厚くなる一方で、誰もが、自分に合ったスタイルで読書に親しんでほしいというねらいに向けて、今年度は、授業の中で活用する方法を検討してみました。学年が上がるにつれ、「わいわい文庫」から離れてしまう傾向が見られますが、今後、子どもたちにとって、オンライン図書館やデジタルブックの存在はより身近なものになっていくと思います。自分に合ったスタイルで、読書が楽しめるという経験も積みながら、読書を楽しんでほしいと思っています。

